

WELCOME TO SIPF!



人形劇の新しさを知る7日間、 「下北沢国際人形劇祭」によろこそ!

「人形劇」と聞いて、どんなイメージが浮かびますか？
人形劇は、(日本ではあまりそう思われていませんが) とても民主的で、フレッシュなアートです。人形劇はたった一人で、狭い部屋の中で、あり合わせのもので始めることができます。そしてうまくいけば、何百人もの観客の心を動かすことができます。ちょうどボサノバが、小さなアパートの一室でボンボンと歌うブラジルの若者たちによって始まり、一大潮流を作ったように。

「下北沢国際人形劇祭」では、アイルランド・イギリス・スロヴェニア・チェコ・ドイツ・米国の各地に生きる若者たちが作った、とがって面白人形劇の数々を、下北沢のクールな空間で観ることができます。

人形劇は、演劇・美術・音楽・ダンス・サーカスなどと交わりつつ、独自に発展してきました。人形劇は何世紀も前から今に至るまで、

社会や政治に対するラディカルなメッセージを伝える媒体です。このフェスティバルにかかわる人形劇は、パンクであり、フェミニズムであり、反全体主義であり、反権威主義です。人形劇の世界にあふれる新しいアイデアと批判精神は、既存のすべてに飽き飽きしている人の助けになるかもしれません。

2024年2月21日(水)～27日(火)の下北沢での1週間。ザ・スズナリでは、毎日、違う国の人形劇を上演。屋外でのパレードや無料上演もあります。アレイホールは、アーティストを囲んでの「朝ご飯会 (Breakfast Puppet Club)」の会場となります。人形劇のレクチャーやワークショップも開催します。誰でも寄稿できるデイリージャーナルも発行します。演じる人、観る人、手伝う人…みんながひとりの「人形劇人」として出会う、国際的で草の根的なフェスティバルをぜひ、おたのしみください。

プログラムは変更の可能性がありますので、最新情報はウェブサイトでご確認ください。

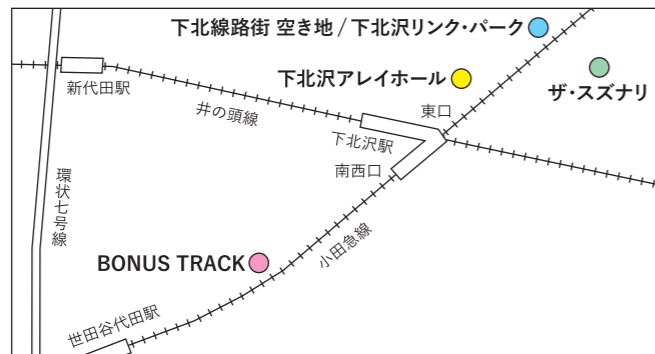
2024年2月21日 - 2月27日

	2月21日(水)	2月22日(木)	2月23日(金・祝)	2月24日(土)	2月25日(日)	2月26日(月)	2月27日(火)
10:00		朝ご飯とトーク①	朝ご飯とトーク②	朝ご飯とトーク③	朝ご飯とトーク④	朝ご飯とトーク⑤	朝ご飯とトーク⑥
10:30							
11:00							
11:30					子ども向け無料公演 無料 40分		
12:00							
12:30							
13:00				レクチャー① 無料 90分	レクチャー② 無料 90分	ワークショップ 有料 180分	
13:30							
14:00			音楽テント 無料 30分				
14:30							
15:00			公演 『ハンドバベットの現在地』 有料 90分	音楽テント 無料 30分	音楽テント 無料 30分		公演『道化恐怖症』 有料 75分
15:30							
16:00	公演『Stickman(棒人間)』 有料 45分				公演『The Table』 有料 70分		
16:30							
17:00	Opening		ショート人形劇 連続上演 無料 120分	公演『KAR』 有料 60分		公演『Reunion』 有料 50分	
17:30	公演『犬の生活』 有料 60分						
18:00							
18:30							
19:00		公演『Stickman(棒人間)』 有料 45分					公演『道化恐怖症』 有料 75分
19:30							
20:00	公演『犬の生活』 有料 60分		公演 『ハンドバベットの現在地』 有料 90分	公演『KAR』 有料 60分	公演『The Table』 有料 70分	公演『Reunion』 有料 50分	Closing
20:30		コンサート 有料 60分					
21:00							
21:30							

チケット

12/10 発売開始	全席自由・税込
一般	4,200円
U-25 (25歳以下)	2,000円
パトロナス・パス	35,000円

お取り扱い カンフェティ/イープラス
SIPFチケットセンター
mail: ticket@sipf.jp
tel: 070-4135-6744



お問い合わせ

mail: ticket@sipf.jp
tel: 070-4135-6744
http://www.sipf.jp/
X @ : @sipf_tokyo



助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京【芸術文化魅力創出助成】、芸術文化振興基金助成事業、公益財団法人関西・大阪21世紀協会日本万国博覧会記念基金事業、EU・ジャパンフェスト日本委員会、公益財団法人全国税理士共栄会文化財団、Nordland Visual Theatre、ゲーテ・インスティトゥート、Culture Ireland
協力：チェコセンター東京
主催：特定非営利活動法人 Deku Art Forum 共催：ザ・スズナリ、下北沢アレイホール
後援：NPO法人日本ウニマ(国際人形劇連盟)、駐日スロヴェニア共和国大使館

S
HIMOK
ITAZAWA I
NTERNATIONAL
PUPPET FESTIVAL

Discover the New in Puppetry
人形劇の新しさを知る7日間
第34回下北沢演劇祭参加作品
第一回 2024/2/21-27 https://www.sipf.jp



The Suzunari / Alley Hall
SHIMOKITAZAWA AKIICHI
Shimokitazawa Link Park
BONUS TRACK

ザ・スズナリ、下北沢アレイホール、下北沢リンク・パーク、BONUS TRACK

Ireland / UK / Slovenia / Czech Republic / Germany / US / Japan
アイルランド・イギリス・スロヴェニア・チェコ・ドイツ・米国・日本


下北沢国際
人形劇祭



メインプログラム（有料公演） ザ・スズナリ


<p>2月21日(水) 17:30/20:00</p> <p>『犬の生活』 Teatro Matita (スロヴェニア)</p> <p>#ハンドパペット #オブジェクトシアター #イヌ #音楽劇 #一人芝居 #チャベック #チェコ #マザイク大統領 #スロヴェニア #1930年代</p>  <p>チャベック『犬の生活』を題材にしたオブジェクトシアター。人間にシッポを踏まれるたびに、ダーシェンカは「犬の生」というものを実感していた。第二次大戦前、イデオロギーの台頭に立ち向かった人々が得たのもまさしく「犬の生」だった。ダーシェンカの生と、チャベックの生が交錯する。小さなもの、傷つきやすいものに対する詩的態度と、真実の名の下に幾度も独断を押しつけるメディアの喧騒との対比を、オブジェクトシアターならではの手法で描き出す。</p> <p>言語：ほぼノンバーバル、若干の英語あり（日本語字幕） 推奨年齢：15才以上 上演時間：60分</p>	<p>2月22日(木) 16:00/19:00</p> <p>『STICKMAN(棒人間)』 Darragh McLoughlin (アイルランド)</p> <p>#オブジェクトシアター #フィジカルシアター #アクロバット #角材 #アイルランド #笑える #ポスト人間中心主義 #信頼できない語り手</p>  <p>ステージには一人の男と一本の棒が置かれている。背景には大きなフラットスクリーンTBV。画面には「男／棒」と表示されている。まるで、人間が目の中の舞台をどう見るべきか、スクリーンがいちいち指示しているかのようだ。時間とともに男と棒は形を変え、それぞれある種の独立性を得るようになる。その間、常にスクリーンは私たちに何を見るべきか教えてくれるが、はたして私たちは、それ以外のものを見ることができるだろうか。</p> <p>言語：ノンバーバル（演出上の日本語・英語ディスプレイ表示あり） 推奨年齢：10才以上 上演時間：45分</p>	<p>2月23日(金・祝) 15:00/19:30</p> <p>ハンドパペットの現在地</p> <p>#ダブルビル(二作品併演) #ハンドパペット #路上人形劇の伝統 #チェコ #ドイツ #社会風刺 #子育て #子ども #2020年代 #コロナ禍 #自宅隔離 #ノンバーバル #笑える</p> <p>人形劇の源流であるハンドパペットは、今もシーンの最前線を走っています！伝統と現代の交錯を目撃する、ダブル・ビル（二作品併演）公演です。</p> <p>【作品①】 『Kašpárek and Co.』 Divadlo Alfa (チェコ)</p>  <p>カシュパーレクにとっても仕事と育児の両立は簡単ではない。しかも家には死神もいて…。チェコを代表する公立人形劇場、Divadlo Alfaによる2023年の新作。主人公「カシュパーレク」は、イタリアのブルチネツラに端を発し、欧州が共通して持つ民衆人形劇のキャラクター。民衆人形遣いの熟練芸を生かしつつも、主題と演出はあくまで現代的。</p> <p>言語：ノンバーバル 推奨年齢：5才以上 上演時間：40分</p> <p>【作品②】 『Boxed』 Ariel Doron (ドイツ)</p>  <p>人形劇界の若手スター的存在、Ariel Doronの最新作。ある男が自宅隔離中、Amazon.comからいつものように段ボール箱が届く。商品名は「友達」。箱を開けるとリアルな人間の手の形をしたオブジェクトが入っている。孤独な主人公は、心通うオブジェクトの出現を喜び、「友達」として愛でるが、次第にその予測不能の暴走に巻き込まれていく。</p> <p>言語：ノンバーバル 推奨年齢：10才以上 上演時間：20分</p>	<p>2月24日(土) 17:00/20:00</p> <p>『KAR』 DAMUZA + Fekete Seretlek (チェコ/スロヴェニア)</p> <p>#オブジェクトシアター #クストリツァ風 #エスノ音楽 #ウォッカ #トルストイ #キャパレー #ブラハ芸術アカデミー #チェコ #1870年代</p>  <p>トルストイ『アンナ・カレーニナ』をモチーフにしたオブジェクトシアター。葬儀の晩餐会へ訪れた弔問客（=観客）にはウォッカが振る舞われる。グラスの音がメロディーに変わり、ティーカップはロシア宮廷舞踏をおどり、気がつけば観客はアンナ・カレーニナの物語の登場人物になっている。アコーディオン、パーカッション、バイオリン、チェロ、コントラバスと歌声にのせて、机上のオブジェクトの予想もつかない動き・振る舞いが、故人の人生を次第に明かしていく。</p> <p>言語：英語・チェコ語（日本語字幕） 推奨年齢：15才以上 上演時間：60分</p>	<p>2月25日(日) 16:00/20:00</p> <p>『The Table』 Blind Summit (イギリス)</p> <p>#BUNRAKU #哲学者兼コメディアン #テーブルトップパペット #三人遣い #ブリティッシュユーモア #ロンドン五輪開会式に出演 #受賞歴多数</p>  <p>文楽に影響を受けたという三人遣い人形（ただし段ボール製）一体と、何の変哲も無いテーブル一台。舞台にあるのはそれだけ、しかし史上屈指の傑作として現代人形劇界を席卷した有名作品。英語圏の人形劇人でこの作品を知らなかったらモグリとされる。Tommy CooperとEddie Izzardを足して二で割ったような哲学者兼コメディアンである主演の人形「モーセ」は、「これまで人間が地球上で目にした中で最も面白い段ボールの塊」だとの評あり。「現代人形劇トップ5のひとつ」—Sunday Telegraph</p> <p>言語：英語（日本語字幕） 推奨年齢：15才以上 上演時間：70分</p>	<p>2月26日(月) 17:00/20:00</p> <p>『REUNION』 MEHEDAHA (チェコ)</p> <p>#オブジェクトシアター #夢幻劇(féerie) #即興音楽 #チェコを代表する美術家 #1980年代アンダーグラウンドシーンの伝説 #このフェスティバルのために再結成</p>  <p>チェコの伝説的なオルタナティブ・シアターグループ「MEHEDAHA」が、このフェスティバルのために30年ぶりに再結成！リーダーのPetr Niklによれば、この作品は「非言語的な夢幻劇」あるいは「夢のようなタブロー」。舞台の後方では、いずれもチェコを代表する美術家 Petr Nikl や František Petrákの手によるマリオネットが遥かな想像力の高みへと誘う一方、前方では小さなロボットの自律的動きが常に知覚を刺激する。「人形劇」の二つの極を同時に呈示しつつ、それぞれの限界について再考を促す。</p> <p>言語：ノンバーバル 推奨年齢：15才以上 上演時間：50分</p>	<p>2月27日(火) 15:00/18:30</p> <p>『道化恐怖症』 Opposable Thumb Theatre (イギリス)</p> <p>#人形劇 #道化 #パンチとジューディ #存在論的恐怖 #ブリティッシュユーモア #80日かけてイギリスから船便で届く段ボールの山 #抱腹絶倒 #一瞬フルヌードあり</p>  <p>ヨーロッパ中で観客を恐怖と爆笑の渦に陥れたヒット作品。現代的で優れた作品を数多く生み出している Nordland Visual Theatre（ノルウェー）によるプロデュース。高級料理からチェーンソーまであらゆるものが段ボールでできた虚构世界から、二人の道化がなんとか抜け出すともかく、邪悪な人形「ボコ」に捕まってしまふ。逃げ出すには、間抜けな観客をだまして身代わりにするしかない…。人形を操りながら人形に操られる、それを可視化する技術が卓越している。人形劇史上屈指のスラップスティック・ホラー・コメディ。</p> <p>言語：英語（日本語字幕） 推奨年齢：15才以上 上演時間：75分</p>
---	---	--	---	--	--	--

サイドプログラム

<p>コンサート</p> <p>2月22日(木) 20:30 下北沢アレイホール 有料・要予約</p> <p>『SIPF音楽の夜』</p> <p>出演：Fekete Seretlek・トラベルムジカ</p> <p>SIPFのオープンを祝し、出演者2組による生演奏のコンサートを開催します。楽しい音楽と飲み物、美味しい料理で、素敵な夜を一緒に過ごしましょう。</p>	
---	---

<p>レクチャー①</p> <p>2月24日(土) 13:00 下北沢アレイホール 無料・予約不要</p> <p>『人形劇×映画・演劇・舞踊』</p>	<p>登壇者：小川佐和子（映画学／北海道大学）、田ノ口誠悟（演劇学／日本学術振興会特別研究員PD）、北原まり子（舞踊学／早稲田大学）</p> <p>司会：山口遥子（人形劇学／SIPF・東京藝術大学）</p>
--	---

<p>レクチャー②</p> <p>2月25日(日) 13:00 下北沢アレイホール 無料・予約不要</p> <p>『スズナリと人形劇』</p>	<p>登壇者：天野天街（劇作家・演出家／劇団少年王者館主宰）、飯室康一（糸あやつり人形劇団みのむし・ITOプロジェクト）、山田俊彦（人形劇団ココン・ITOプロジェクト）、岡島哲也（『しがらみ紋次郎』プロデューサー）</p> <p>司会：野田治彦（ザ・スズナリ支配人）</p>
--	---


<p>ワークショップ</p> <p>2月26日(月) 13:00–16:00 下北沢アレイホール 有料・要予約</p> <p>『オブジェクトシアター入門』</p> <p>講師：Ariel Doron</p> <p>数々の受賞歴を持ち、現代人形劇／オブジェクトシアター界を代表するアーティストの一人、Ariel Doronが、その創造の魔法を一から解き明かしてくれます。人形劇に長年取り組んでいる方にも、これから初めて取り組むという方にも。（英語／日本語通訳付き）</p>	
--	---

<p>ショート人形劇連続上演</p> <p>2月23日(金・祝) 17:00 BONUSTRACK 無料・予約不要</p> <p>『第一回 インターナショナル・パペットスラム』</p> <p>チェコ・米国・日本の3カ国間パペットスラム・インターナショナルの第1回を開催します（全米のPuppet Slam Networkと提携して実現）。実験的作品の発表スペース。各組の持ち時間は10分以内。国内数組に加え、チェコと米国から1組ずつ参加。</p> <p>出演者募集ページはこちら！https://puppetslam.studio.site/</p>	<p>#無料公演 #ショート #制限時間10分 #日本 #チェコ #アメリカ #コンペティション #人形劇寄席 #実験的</p> 
--	--


<p>カリグラフィー</p> <p>日時未定 BONUSTRACK</p> <p>『オブジェクト・カリグラフィー』</p> <p>パフォーマンス：Darragh McLoughlin 音楽：John Summers</p>	<p>#無料公演 #カリグラフィー #バランス #オルタナティブ #自動筆記 #技巧派</p> <p>あなたのお気に入りのオブジェクトの一つ、なんでもよいので持ってきて下さい。ダラーさんが、それを身体のどこかに置いてバランスを取りながら、同時にカリグラフィーを完成させます。書かれた作品はお持ち帰り頂けます。</p>
--	--


<p>音楽テント</p> <p>2月23日(金・祝) 14:00–14:30 下北線路街空き地、下北沢リンク・パーク</p> <p>2月24日(土) 15:00–15:30 BONUSTRACK</p> <p>2月25日(日) 15:00–15:30 下北線路街空き地、下北沢リンク・パーク</p> <p>『Re: 本田祐也の移動広告テント』</p> <p>出演：トラベルムジカ 無料・予約不要</p>	<p>#無料公演 #屋外公演 #ドイツからやってくるテント #ハンドペイント #打楽器 #管楽器 #ジャズ #チンドン #チャンキトルネエド</p> 
--	--

<p>言語：ノンバーバル 推奨年齢：0才以上 上演時間：30分</p>	<p>早世した異色の作曲家・本田祐也の作品を演奏し、その音楽を今生きる人々とつながりきっかけを作ることを目的に活動するトラベルムジカ。2001年に横浜トリエンナーレで発表した「ching-dongの移動広告テント」の再演を試みる。下北沢の街中での路上練り歩き演奏パフォーマンス。</p>
---	---

<p>子ども向け無料公演</p> <p>2月25日(日) 11:30 下北線路街空き地 予約不要</p> <p>『チェコの人形劇 カシュパーレクさんとハチャメチャカぞく』</p> <p>出演：Divadlo Alfa 言語：ノンバーバル 上演時間：40分 推奨年齢：5才以上</p>	 <p>チェコからやってきた、楽しい人形劇！下北沢の小学生たちにはおなじみ、「ドカン」のまわりで上演するよ。友達さそって、みんなで見に来てね！おそとで劇をみるから、暖かい服を着てきてね。たくさん笑ってあげると、役者がよろこぶよ！</p>
--	---

<p>朝ご飯とトーク</p> <p>2月22日(木)–2月27日(火) 10:00–11:00 下北沢アレイホール 9:30 開場 予約不要</p> <p>『BREAKFAST PUPPET CLUB』</p> <p>毎朝、おいしいコーヒーと朝ご飯とともに、アーティスト・観客・スタッフが自由に交流する時間。作品についてのプレゼンテーションあり。朝ご飯は当日、フェスティバルのBARでご注文下さい。</p> <p>プレゼンター</p> <ol style="list-style-type: none">22日 Teatro Matita（スロヴェニア）& DAMUZA（チェコ／スロヴェニア） 23日 Darragh McLoughlin（アイルランド／ドイツ）& Ariel Doron（ドイツ） 24日 Divadlo Alfa（チェコ）& MEHEDAHA（チェコ） 25日 Opposable Thumb Theatre（イギリス） 26日 Blind Summit（イギリス） 27日 トラベルムジカ（日本／ドイツ）	
---	---

<p>フェスティバルセンター</p> <p>2月21日(水)–2月27日(火) 10:00–20:30 下北沢アレイホール</p> <p>『フェスティバルセンター & BAR』</p> <p>下北沢国際人形劇際に来たら、まずはここに立ち寄ろう！ フェスティバルの情報やグッズ、チケットの購入ができるフェスティバルセンターと、 武蔵小山で人気のジャマイカンレストラン「AM-A-LAB（アマラブ）」が美味しい食事や飲み物を用意して待っています。</p>	
--	---

<p>フェスティバルセンター</p> <p>2月21日(水)–2月27日(火) 下北沢アレイホール</p> <p>『Hand Saw Pressのガリ版ジャーナル基地』</p> <p>日本を代表するリソグラフィスタジオHand Saw Pressが、下北沢国際人形劇祭のデイリー・ジャーナルを作成！ といっても、誰からの寄稿も歓迎。ちょっと立ち寄って、フェスティバルの感想や、人形劇にまつわる自分の活動をシェアする記事を書いていっちょうだい。翌日の朝に配布します。</p>	
---	---

<p>アーティスト</p> <p>Teatro Matita スロヴェニアの首都リュブリャナの公立人形劇場の首席演出家でありながら、ソロのパフォーマーやミュージシャンとしても活躍。オブジェクトと音楽の取り合わせの巧みさに定評。東欧圏を代表する若手人形劇人の一人。</p> <p>Darragh McLoughlin フィジカルシアターやニューサーカスのバックグラウンドを持つが、近年人形劇界でも高い注目を集めている、新進気鋭のアーティスト。オブジェクトについての優れたコンセプトと、それを具現化するだけの身体的技術がある。</p> <p>Divadlo Alfa チェコは公立人形劇場が13もあるが、その中でも三指に入る、チェコ人形劇界のトッププレイヤー。東欧圏の伝統人形劇の技法的慣習を保持しつつ、独自のポエジーとユーモアとデザインを備えた現代的作品を作る、という離れ業をやっている。</p>	<p>今回は楽団 Fekete Seretlek（東欧圏を代表する民俗音楽祭「Colours of Ostrava」受賞者）と共に出演。</p> <p>Blind Summit 2012年ロンドン五輪開会式で活躍した巨大人形を製作・操作したり、イギリス国立歌劇場やニューヨークMETなどから委嘱を受けて人形遣いとして出演したり、イギリスきっての著名人形劇団。人形と人形遣いのインタラクションについて、観客の先入見を打ち破る驚きの作品を作り続けている。</p> <p>MEHEDAHA チェコを代表する現代美術家、ペトル・ニクル（Petr Nikl, 1960-）を中心とした芸術家集団。民主化する前の1985年に結成され、現代に至るチェコのオルタナティブ・シアター・シーンに多大な影響を与えた。下北沢国際人形劇祭のために30年ぶりに再結成される。</p> <p>Opposable Thumb Theatre バンク的、破壊的な人形劇カンパニー。高い人形劇操演のテクニクのみならず、クラウンやフィジカル・シアターの技術もある。「作品の中心にしているのは、ウィットに富み、傷つきやすさに満ちた、寛大で熟練した二人のパフォーマーだ。見ていて飽きない二人だ。』-Total Theatre</p> <p>TRAVEL MUSE 「チャンキトルネエド」等の活動で知られる、天逝した作曲家本田祐也（1977-2004）の作品を、ドイツと日本を拠点とするパーカッションユニット渡邊理恵が率いて新たな形で上演するプロジェクト。</p>
---	--